

令和6年度 第3回 高台中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年2月7日（金） 15時30分から16時30分まで
- 2 開催場所 高台中学校 第2会議室
- 3 出席委員 齋藤 健二、岡本 護、渡邊 貴子、里中 恵介、山崎 えみ子
- 4 欠席委員 木村 大介、鈴木 真一
- 5 学校支援コーディネーター 和久田 鈴香
- 6 学 校 守屋 謙一郎（校長）、松原 通恭（教頭）、高林 厚志（教務、CS担当）、
太田 亮平（生徒指導主事）、川嶋 弘美（教諭、CS担当）、
和久田 鈴香（CSディレクター）
- 7 傍 聴 者 なし
- 8 会議録作成者 和久田 鈴香（CSディレクター）
- 9 議長 の 選 出
司会の川嶋より、議長の選出について第2回協議会において承認されたとおり、会長を選出する旨の報告があった。
- 10 協 議 事 項
 - （1）学校関係者評価について
 - （2）来年度の学校運営協議会の基本方針
 - （3）学校運営協議会の本年度の反省と来年度に向けて
- 11 会 議 記 録
司会の川嶋より、委員総数7人のうち5人の出席があり、過半数に達しているため、議会在立する旨の報告があった。

（1）学校関係者評価について

議長の指示により、生徒会長より生徒側から見た学校の様子や学校生活での心構えなど報告があった。続いて、教務主任から資料に基づき、2学期の学校アンケート結果の分析と考察、今後の課題と対策についての報告があった。さらに、生徒指導主事からいじめや不登校の現状について報告があり、去る1月25日（土）に文部科学省にて行われた「令和6年度 全国いじめ問題子供サミット」にて静岡県代表として生活委員の生徒2人が発表した旨、報告があった。委員からは以下の発言があった。

- ・ いじめられている側、いじている側は区別できているか。（岡本委員）
→被害・加害を確認してから指導している。相互の見解の違いがみられるケースはあるが、一定の人間関係があり、（いじめを）受けた側が嫌な気持ちになれば「いじめである」と判断し、指導している。（生徒指導主事）
- ・ 不登校の生徒に学校は何ができるかと考えるか。不登校の生徒の進路は。（齋藤会長）
→学び方も多様になっている。リモート授業も受けられるようになっているが、学校に登校できない生徒にとって、リモートで授業の様子を見ることもプレッシャーと感じる生徒もいる。実際にリモート授業を受けているのは少数である。
欠席の多い生徒でも進路先はたくさんある。通信制や定時制のほかにも、全日制の私学には不登校枠として受け入れている高校もある。（本校在学中は）まなびの教室や不登校だった生徒が無事に高校を卒業したと報告をしに来てくれることもある。まなびの教室は教室復帰と社会的自立にむけた場所づくりを目指しているため、学習時間が少なめであることに心配もあったが、ここでエネルギーを蓄えることが高校卒業までの「力」に繋がったのかもしれないと感じた。（生徒指導主事）

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

(2) 来年度の学校運営の基本方針

議長の指示により、校長より来年度の学校経営構想案について、引き続き、「(幸せな)大人になるための学校」を学校教育目標とし、従来の自己調整力の育成だけでなく、新たに「自己判断力の育成」を加え、考えるだけでなく、正しい(より良い)方向に決断する力を育てていきたい旨の説明があり、全員異議なくこれを承認した。

(3) 学校運営協議会の本年度の反省と来年度に向けて

議長より、学校運営協議会として目標に掲げた三本の柱「①不登校支援」「②地域で育てる」「③よい行動・表れの紹介」について、学校側からの報告を求められ、教頭から本年度の取り組みについて以下の報告があった。

① 不登校支援

会長より紹介のあった浜松市水道局・薬局(住吉地区)・保育園・ミカン農家(和合地区)への体験については、来年度の活動候補となっている。また、渡邊委員から紹介のあった本田技研についても、来年度の教育活動に生かせたらと考えている。

② 地域で育てる

高台中校区の方を講師に迎えて「筆講座」を実施し、協議会委員の皆様や地域の方へ年賀状を送った。また、浜松出身の早川千晶さんや太田智樹さんを迎え、全校対象に講演会を行い、生徒の心の熟成に繋がられた。

③ よい行動・表れの紹介

筆講座や講演会、学校運営協議会の様子などを生徒へのお褒めの言葉を加えた掲示物を作成して廊下へ掲示し、生徒に発信した。さらに新聞社へも声をかけて記事にもらい、新聞記事も廊下へ掲示した。

委員からは以下の発言があった。

- ・ 中学校で(CSとして)何が必要なのか模索中である。先生方のCSへの周知が広がれば学校側からの要望も増えるのではないかと。(渡邊委員)
→教員内に地域の方の力を借りるという意識を高めたいと考える。(教務)
- ・ 先生方は入れ替わってしまうが地域の方は変わらないため、その地域の方と高台中を結ぶものがあれば協力したい。(山崎委員)
- ・ 「幸せな大人になるための学校」を目指すなら、幸せに活躍している大人の授業を受けさせるのもいいのではないかと。社会人の生の声に触れさせるのは中学生には良いタイミングと考える。(里中委員)
→講演会の中で輝いている大人の姿もみせているが、より地域の大人の声に触れさせる機会を増やせるよう、総合学習の時間や帰りの会などをつかって実施することは可能である。(教務)

議長より、③よい行動・表れに繋がるものとして、中日新聞のひとこと欄に本校の生徒3名の言葉が掲載された旨、報告があった。また、本校で実施予定であったICT機器を用いた検証授業が諸般の事情によって見送りとなった旨、報告があった。

続いて、来年度の目標として引き続き、「①不登校支援」「②地域で育てる」「③よい行動・表れの紹介」をCSが関わる三本の柱とし、より充実させて、来年度中には何かを実施できるようにしていきたいとの提案があり、全員異議なくこれを承認した。

12 連絡事項

(1) 夢育やらまいか事業CS加算分の報告について

教頭より夢育やらまいか事業CS加算分について、第1回目協議会で議決された通り使用した旨、報告があった。

(2) 部活動について

(3) 筆講座(地域人材活用)の実施報告

(4) 学校支援CD研修会報告

令和7年度の予定

- 第1回 5月20日(火) 15時30分から16時30分まで
- 第2回 10月17日(金) 15時00分から16時30分まで
- 第3回 2月 6日(金) 15時30分から16時30分まで